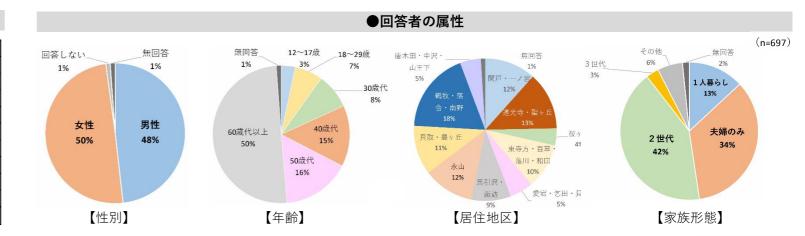
お住まいの周辺の環境に対する評価等

1 調査概要

調査目的	身近な環境の評価、環境保全のための取組状況、今後の環境施策に期待することなどについて聞き、次期計画に反映する			
調査対象者	市内在住の 12 歳以上の男女			
抽出方法	住民基本台帳による層化無作為抽出法			
調査方法	郵送による配布、郵送及び web による回収 (無記名方式)			
実施期間	令和4年11月15日~12月2日			
配布数	2,000 通			
回収数	697 通(郵送回収 569 通、web 回収 126 通)			

●回収数 (年齢別)

年	齢・年齢区分	配布数	回収数	回収率
	12~17 歳	110	23	20.9%
	18~29 歳	255	46	18.0%
	30 歳代	228	58	25.4%
30) 歳代以下	593	127	21.4%
	40 歳代	325	100	30.8%
	50 歳代	324	112	34.6%
40	0・50 歳代	649	212	32.7%
60) 歳代以上	758	350	46.2%
無	回答	_	8	-
合 計		2,000	697	34.9%



2 調査結果 (環境全般)

市民の気候危機への認識を踏まえ、 気候変動に対する認識・危機感

(問1) 関心のある環境問題

・関心がある(関心がある、やや関心がある)と回答した人が 9割以上となったのは、「ごみ・リサイクル、資源の循環」 (94%)、「地球温暖化、気候変動問題」(93%)、「みどりの 保全・管理」(92%)、「エネルギーの利用」(91%)、「プラ スチック廃棄物」(90%)である。

関心のある環境問題

- ・回答した人が比較的少ないのは、「生物多様性の保全」 (76%) や「環境活動、環境教育・環境学習」(79%) である。
- <年齢区分別>
- ・各項目(「生物多様性の保全」を除く)とも、30 歳代以下は 60 歳代以上よりも環境問題への関心が低い。「地球温暖化、 気候変動問題」について関心があると回答した人は、30 歳 代以下(87%)よりも、60歳代以上(96.7%)が多い。



(問2) お住まいの周辺の環境に対する評価

- ・環境の状態が良い(良い、どちらかといえば良い)と回答した人が9割以上となったのは「緑の豊かさ」(98%)である。
- ・環境の状態が悪い(悪い、どちらかといえば悪い)と回答した人が比較的多いのは、「道路の利用しやすさ・歩きやすさ」(24%)、「河川や水路、池などの水のきれいさ」(20%)、「騒音・振動、まちの静かさ」(18%)などであった。
- <年齢区分別> ・各項目とも、年齢区分による大きな差は
- <世論調査との比較>

ない。

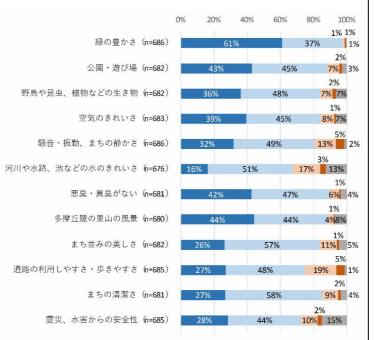
・各項目の評価点は、第39回世論調査(令和3年度)の結果とほぼ同様の傾向である。評価が一番高いのは「緑の豊かさ」、評価が一番低いのは「河川や水路、池などの水のきれいさ」である。

(問 11) 多摩市のみどりの豊かさに対する イメージ

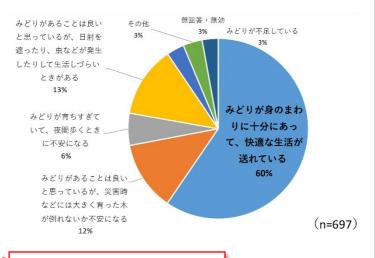
- ・「みどりが身のまわりに十分にあって、 快適な生活が送れている」と回答した人 が大半(60%)。
- ・同時に、みどりについて、日射の抑制や 虫の発生、繁茂しすぎ、倒木などのジレンマを感じる人も多い(計41%)。

<年齢区分別>

- ・「みどりが身のまわりに十分にあって、 快適な生活が送れている」を回答した人 は、年齢区分による大きな差はない。
- ・みどりがあることは良いと思っているが、「災害時などには大きく育った木が倒れないか不安になる」については、30歳代以下(8.2%)よりも、60歳代以上(18.0%)が多い。
- ・また、「日射を遮ったり、虫などが発生 したりして生活しづらいときがある」に ついては、60 歳代以上(10.5%)がより も、30 歳代以下(19.7%)が多い。



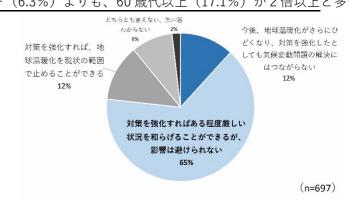
■良い ■どちらかといえば良い ■どちらかといえば悪い ■悪い ■わからない



市民のみどりに対する評価やジレンマ を踏まえ、戦略 2 を設定

(問4)地球温暖化対策に対する考え

- ・温暖化対策を強化することによって、「厳しい状況を和らげることができるが、影響は避けられない」と回答した人が大半(65%)を占めており、危機感を感じている人が多い。
- <年齢区分別>
- ・気候変動問題に対し楽観的にとらえる選択肢「対策を強化すれば、地球温暖化を現状の範囲で止めることができる」を回答した人は、30歳代以下(6.3%)よりも、60歳代以上(17.1%)が2倍以上と多い。



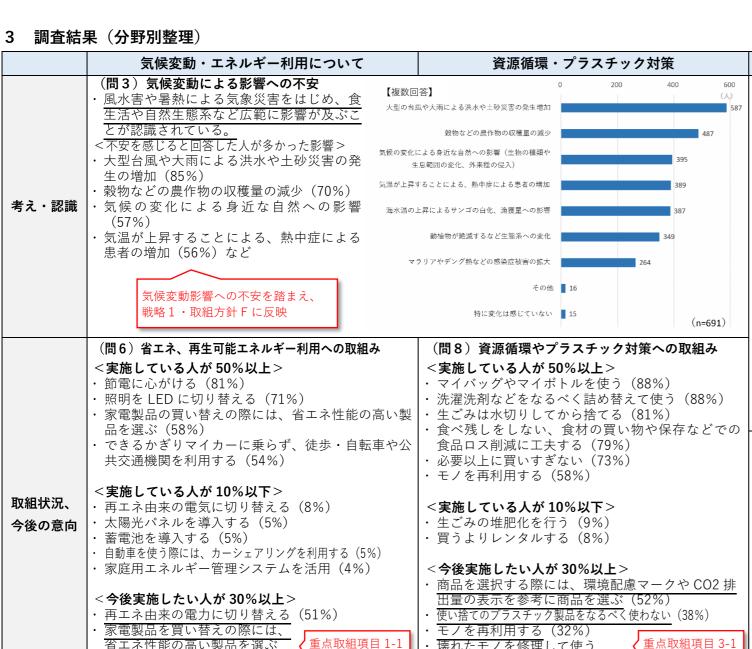
(問5)「多摩市気候非常事態宣言」に対する考え

<回答した人が比較的多い考え>

・将来の世代のために、危機感を共有し、具体的な行動を踏み出すことが重要(64%)

・ 市民・民間事業 者・市のそれぞれ が、省エネルギー や再生可能エネル ギーの利用に取り 組んでいくことが 重要(62%)





・1-2 や取組項目

20% 27% 9%

17% 27% 8% 15%

23% 23% 20%

22% 22% 13%

G1・H1 に反映

(問7) 省エネ・再エネ利用の推進 (問9) 資源循環・プラスチック対策の推進

各施策とも支持する人は80%以上。

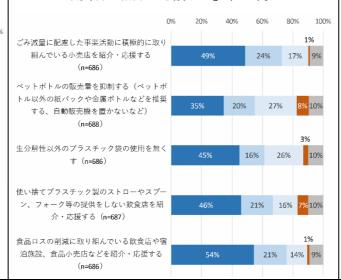
買うよりレンタルする(31%)

壊れたモノを修理して使う

支持しない人が比較的多い施策は、「ペットボトル の販売量を抑制する | (8%)、「使い捨てプラスチ ック製のストローやスプーン、フォーク等を提供 しない飲食店を紹介・応援する | (7%)。

・4-4 や取組項目

13・15 などに反映



(問 10) 市内のみどりに期待する機能

回答した人が比較的多いのは、「やすらぎ・季節感の提 供」(47%) や「生物の生息・生育の空間」(37%)。

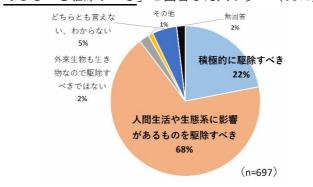
みどりの保全・育成、生物多様性の保全

(問 13) 市内で積極的に守り育てるべきみどり

「市内に残されたまとまりある樹林地」(56%)や「街 路樹などの道路のみどり」(55%)を回答した人が多い。

(問 17) 市内での外来生物への対応に対する考え

市内の外来生物について、「人間生活や生態系に影響が あるものを駆除すべき | と回答した人が多い(68%)。



(問 12) みどりの保全・育成や生物多様性の保全の取組み

<実施している人が 50%以上>

- 野生の動植物をむやみに獲らない(79%)
- 家庭で花や木を育てたり、屋上や壁面を緑化したりする(51%)

<実施している人が 10%以下>

自然観察会や農業体験、川遊びなどの自然に親しむイベ ントに参加する(8%)

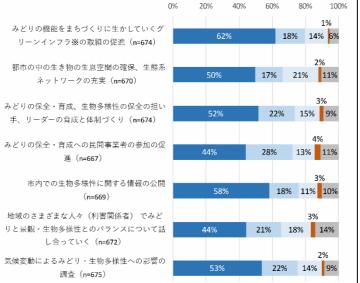
<今後実施したい人が 30%以上>

- 商品を選択する際には、生物多様性に配慮された製品で あることを示す表示を参考に商品を選ぶ(41%)
- 地元の農作物や旬の食材を選ぶ(36%)
- 公園緑地や道路などでの 花壇や植栽の管理、清掃 活動に参加する(31%)

重点取組項目 3-1・3-2・5-2 や取組項目 A4 などに反映

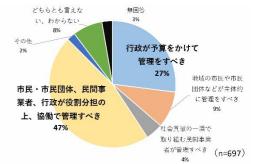
(問 16) みどりの保全・育成、生物多様性の保全の推進 各施策とも支持する人は80%以上。

支持する人が 90%を超えた施策は、「みどりの機能をま ちづくりに生かしていくグリーンインフラの取組の促 進1 (93%)。



環境活動 (問 19) 地域での環境保全活動に取り組むべき主体

- 「市民・市民団体、民間事業者、行政が役割分担の上、 協働で管理すべき | と回答した人が最も多い(47%)。
- 「(略)協働で管理すべき」は、30歳代以下(31.7%)や 40・50 歳代(47.8%)よりも、60歳代以上(55.2%)が 多い。



(問 20) 環境啓発イベントや環境学習の機会への参加について

- 参加している又は参加したいと考えている人は 62%。こ のうち「参加したいが、難しい」と回答した人は35%。
- 参加したい理由:「環境保全や持続可能な社会づくりに関 心がある」、「知識・経験を得たい」 | 地域や SDGs に貢献
- 参加が難しい・参加しない理由:「活動する日程・曜日が 合わない」が多い。|高齢のため」|体力・体調的に難し いしなどの自由回答も多い。

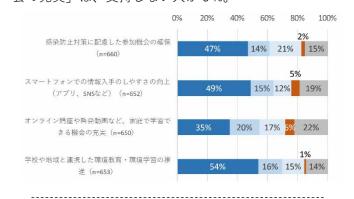


(問 18) みどりの保全・育成に関わる活動に対し、参加し たい活動・関心のある取組み

公園アダプト(39%)、農体験(38%)、グリーンボラン ティア (36%)、花壇ボランティア (32%) の順。

(問 24) 地域での環境保全活動、環境学習活動の推進

- 支持する人が80%を上回った施策は、「学校や地域と連携 した環境教育・環境学習の推進」(84%)と「感染防止対 策に配慮した参加機会の確保 (82%)。
- 「オンライン講座や啓発動画など、家庭で学習できる機 会の充実」は、支持しない人が6%。



<各分野共通>

・各分野・施策とも、社会・経済への効果や 生活に支障がないことを条件に、施策への 支持を回答する人が一定程度いる。

支持

各分野の施策(市 の役割)の検討に あたり参考とする (令和5年度予 定)。

施策への

省エネ性能の高い製品を選ぶ

断熱性の高い窓にする(35%)

再生可能エネルギー由来の電気の利用促進 (n=680)

新築及び現存の住宅・建物での太陽光発電の導入促進

省エネや再エネ利用により、二酸化炭素の排出がない

「ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス (ZEH) 」「ネット・

電気自動車や燃料電池車など、次世代自動車の普及促進

【グラフ凡例】 ■支持する

ゼロ・エネルギー・ビル (ZEB) 」の普及促進 (n=679)

支持する人が 80%を上回った施策は、「再生可能エ ネルギー由来の電気の利用促進」(90%)と「電気

自動車や燃料電池車など、次世代自動車の普及促

「新築及び既存の住宅・建物での太陽光発電の導

■社会・経済にも効果があれば支持

■どちらともいえない・わからない

■生活に支障がなければ支持

■支持しない

入促進 については、支持しない人が8%。